

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年5月31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873600589		
法人名	有限会社 イケナガ		
事業所名	グループホーム はさき寿長生の家	ユニット名	果物グループ
所在地	〒314-0408 茨城県神栖市波崎5560-1		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果 市町村受理日	平成24年5月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報公表支援センターのホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0873600589&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年11月7日	評価確定日	平成24年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利根川に隣接し、対岸のすばらしい景色がホーム内や浴室からも見渡せ、広い庭には花や野菜を作り、入居者が自由に庭に出て、四季折々の花や野菜の収穫を楽しめるようにしています。家族や地域の人達が遠慮なくホームに訪問できるように、スタッフ、入居者共々いつでも笑顔で歓待しています。地域のイベントには声を掛けていただき、楽しく参加し、交流を図っています。魚市場に魚が水揚げされると新鮮なイワシ、アジ、サバ等が届き、その度に天ぷらや焼魚で舌鼓を打っています。また、社長が作る刺身を楽しみにしている入居者も多くいます。出来る事、得意な事など、持てる力を発揮し、入居者が生き生きと笑顔で暮らせるような環境づくりをしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>代表者は地元の住人で地域との交流を大切に考えており、地域のボランティアを受け入れたり地域行事に参加しているほか、事業所行事に地域の人々を招待するなど、利用者ならびに事業所自体が地域の一員として暮らせるよう取り組んでいる。</p> <p>利用者はいつも笑顔が絶えず、居間に掲示している「これから音頭」を利用者全員で歌ったり、手拍子をとったりしているほか、地域の盆踊りにも参加していることから、音楽がかかると利用者が立って踊ったり、手拍子をとったりしている。</p> <p>近隣住民から旬の食材のお裾分けがあるほか、利用者は、時にはノンアルコールビールを飲みながら食事を楽しんでいる。</p> <p>掲示している行事の写真には利用者の笑顔があふれており、日々楽しく生活している様子が伺える。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	分かりやすい言葉で、見やすい場所に明示しており、ご家族様にも、入所時、十分説明をしている。職員全員、理念を共有し、日々のケアに生かせるよう、目標をミーティング時に唱和している。	事業所は理念に基づき地域との交流に積極的に取り組んでいる。 理念を玄関先に掲示し、いつでも見ることができるようにしている。 職員は毎日のミーティング時に理念を唱和し、日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、回覧板も回ってくる。区民館の上棟もちまき大会や盆踊り等にも参加している。また、この地域の一大イベントである大潮祭には、漁協より毎年招待を受けみこし見物に出かけ、親類や地元の方々と交流を図っている。幼稚園、保育園児達との相互交流や各ボランティアさんの来所で楽しんでいる。	事業所は開設当初より町内会に加入し、区費を納めており回覧板も届いている。利用者は地域行事の大潮祭りや餅まき大会、盆踊りなどに招待され参加している。傾聴ボランティアを受け入れているほか、近隣住民が定期的に立ち寄ってくれたり、幼稚園児や保育園児が来訪するなど、利用者は地域の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症でも職員の支援があれば、その人らしい生活が出来ていることを地域との交流で理解していただいている。職員2名が認知症地域サポート相談員として窓口になっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、グループホーム知見者、市の職員、ご家族の代表者等の参加を得て、2ヶ月に1回開催している。ホームの近況、課題、行事等の報告をし、意見をいただき、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員などに文書で参加を促し、2ヶ月に1回開催している。 次回の運営推進会議開催に先立ち、開催時期や議題について文書で委員に知らせている。 会議で出た意見等を話し合い、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員とは常に連絡を取り合い、連絡事項の確認や相談にのって頂いている。代表が中心となり発足した、市内のグループホーム連絡会にも出席して頂いている。	事業所で困難な事例を市担当者に相談しているほか、市担当者から情報を得ている。運営推進会議に市担当者の参加を得ており、必要なアドバイスを受けている。市担当者は地域のグループホーム連絡協議会に参加しており、事業所の空き状況や活動内容を報告するなど協力関係を築き、いつでも相談ができる体制となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ケアカンファレンス時に職員がその都度、再確認しながら話し合っている。職員同士が常に声を掛け合い、利用者の安全と居場所を確認しており、自由に庭に出て行動できるように支援している。	玄関の出入りは自由となっている。現在身体拘束はしていないが、対応が難しい利用者の場合は身体拘束をしなくてすむよう、月1回の全体会議で話し合っている。利用者の状態に変化が生じた場合はその日の日勤者でカンファレンスを行い、申し送りノートで全職員に周知して身体拘束をしないケアに努めている。身体拘束排除に向けた研修を実施するまでには至っていない。身体拘束排除に向けたマニュアルを作成しているが、やむを得ず身体拘束をする場合の経過観察記録や家族等への説明書、同意書、検討記録を用意するまでには至っていない。	身体拘束排除に向けた研修を実施するとともに、やむを得ず身体拘束をする場合に備えて、家族等への説明書や同意書、経過観察記録、検討記録の書式を整備することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市主催の研修に参加し、職員全員に資料の回覧、伝達している。職員間のコミュニケーションを密にし、どんな小さな事でも問題として取り上げ、共有し、心に余裕を持ち接することで、虐待に至らないようにしている。また、代表は市の高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会の委員でもあり虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修等に参加し、全職員に伝達、資料の回覧等、制度の理解に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する前に本人同席の上で費用等の説明と本人の要望等を伺い、ホーム内を見学して頂き、納得の上で契約の締結となる。重要事項の説明をして、納得、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員がご家族から受けた意見や要望は、すぐに管理者に伝える。管理者はご家族が訪問された際は、極力、家族と面談をして、要望等、表出しやすい雰囲気になっている。直接、言いにくいことは、意見箱を設置し伝えてもらうようにしている。	管理者は家族等の来訪時に利用者の状態を伝え、意見が無いか確認しているが、意見等を汲みあげるまでには至っていない。意見箱を設置しているが、投函実績はない。	意見等を出し難い利用者や家族等に配慮し、無記名のアンケートを実施するなど、意見等を汲みあげるための工夫を期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティング時、懇親会の時など、機会があればいつでも気づきや意見を話せるようにし、全員で検討して改善している。また、主任会議を設け、職員の考え、意見が管理者に届くようにしている。勤務体制や業務の見直し等、常に職員の気づきや意見を取り入れ改善している。	管理者はミーティングや懇親会で職員が直接意見を出せる機会を設けている。意見等を出し難い職員には主任が意見を聞き、主任会議で話し合うとともに幹部会議で検討し、運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各々の勤務状況、努力や実績に対して、相当分の評価（ボーナスやベースアップ）を行い、幹部会議を年2、3回、職員間のコミュニケーションの場として慰労会等を3ヶ月に1回、開催している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者より研修の案内があり、参加できる職員は参加するようにしている。研修報告書等を活用して発表の場を作り、話し合っている。申し送り時、管理者が指導、助言等をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表が発起人となり、市内のグループホーム連絡会を発足。市の職員や地域密着型介護サービス協議会からも出席を頂き、年3回の連絡会を開催している。グループホームの同じような悩みや課題等を話し合ったり、情報交換、勉強会を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者ご本人のお話（訴え）には出来る限り耳を傾け、安心できるような声掛け、ケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望は速やかに取り入れ、報告、連絡、相談を忘れずに行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階では何を一番優先したいのかを良く聞き入れ、利用者、家族、双方が納得できる支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族として喜怒哀楽を共にし、出来る事はお手伝い頂いたりして助け合っている。常に声掛けをし、一緒に考え行動し、出来ない事は応援していく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時は、日常生活の報告をしつつ、家族からの希望を聞き、双方で利用者を支えていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人等の来所時は、本人と共に大歓迎で迎える。居室で遠慮なく過ごせるよう、茶菓等でもてなすようにしている。行きつけの美容院への送迎等を行い、継続的に支援している。	職員は利用者に面会があった場合はお茶を出したり、利用者と面会者との関係を確認して申し送りノートに記録し、全職員で共有している。 利用者は家族等の付き添いで馴染みの美容室に出かけている。 利用者が会いたがっている人には、電話で面会を働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常、利用者同士が助け合っている場面を多く見かける。時には仲良し同士で外出したり、一緒にお風呂に入ったり等、出来るよう支援している。また、職員が仲立ちとなり、利用者同士の関わり合いが出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、協力出来る事については、いつでも支援に努める用意がある事を伝えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の生活歴を把握し、日常のふれあいの中で一人一人の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者においては、寄り添い、よく観察して、思いや意向の把握に努めている。	契約時に家族等から利用者の生活歴を確認し記録しているほか、センター方式を活用し利用者の思いや意向を記録している。 新しい情報は毎朝のミーティングで申し送りを行っているほか、申し送りノートに記入して共有しており、職員は確認のサインをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人、親類等、関わりのある方から生活歴を聞き、それに基づいて生活を送って頂けるように努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のケアカンファレンスで職員の気づきを情報交換する。予測外の有する力の発見や心身状態など現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との日頃の関わりの中で、希望や意見を聞き、介護計画に反映させている。毎月のケアカンファレンスで1ヶ月間の変化を情報交換し、職員全体でモニタリングしている。	アセスメントを行うとともに、日常生活の中で得た利用者の困りごとや好きなこと、したいこと、できそうなことなどの情報を付箋紙に書いて利用者一人ひとりのケースカードに貼り、追加があればまた新たな付箋紙を加え、対応についてカンファレンスで話し合っている。 付箋紙を書き足すことで、毎月どのような変化があるかを確認することができ、介護計画作成に有効に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の利用者の状態は介護記録に記入し把握できるようにしている。注意すべき事柄は連絡ノートに記入し、職員間で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所待ちの利用者、家族には「共用型デイサービス」等を勧め、家族の介護負担の軽減に役立っている。家族が遠方の利用者が入院の際には、付添や見舞等、協力支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや、幼稚園の運動会、クリスマス会等に参加し、地域住民との交流を楽しみ、季節感、心身の活性化に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が同じかかりつけ医で、月に一度、主治医の往診があり、本人の病状を把握して下さっている。入院時には適切な看護が受けられるよう、情報提供を行っている。	殆どの利用者が協力医療機関の医師による訪問診療を定期的に受診しているが、利用者や家族等の希望で、利用前からのかかりつけ医を受診している利用者もおり、職員は家族等に利用者の状態を伝え、結果を口答で確認し、申し送りをして職員で共有している。入院する場合は、病院へ利用者の情報を提供している。緊急時や家族等が受診に付き添えない場合は、職員が対応をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の指示の下、薬の提供等を行い、身体状況に変化があった場合は、速やかに報告を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護情報等を提供している。退院時はサーマリーを頂く。入院中の利用者の様子等、情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では終末期ケアは行っていない。入所時、ご家族には、出来る限り寿長生の家で面倒を見させていただき、口から食事が摂取出来なくなった場合は主治医との連携を行う旨を伝えている。	事業所は看取りはしない方針で、経口摂取ができなくなった時点で医療機関へ入院となることを契約時に口頭で利用者や家族等に説明をしている。 緊急時は協力医療機関の受け入れが可能となっている。 看護職員による夜勤が行えるように体制を整えている。	重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を全職員で検討し、利用者や家族等に書面で説明して同意を得ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急救命講習を実施している。応急手当や急変時の対応等、実践に役立てるよう努力をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋に消防訓練（避難訓練）を実施。災害に備えて、水、食糧の備蓄、避難場所を確認する。協力体制のため、日常的に近所付き合いを密にしている。	年2回避難訓練を実施するほか、地震などを想定した事業所独自の避難訓練を毎月実施して、実施記録を作成している。 避難訓練で明らかになった課題を話し合い、記録して次回の訓練に活かしているが、避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 乾パンや飲料水、毛布などを備蓄しているが、量が少なく、リストを作成するまでには至っていない。 津波警報が聞こえにくかったため、直接事業所に情報が入るように改善している。 現在、市が指定する避難場所は近隣の小学校だが、津波が起きた際に高台に避難ができるように、市でも避難場所を検討している。	避難訓練に近隣住民の参加が得られるように運営推進会議などで協力依頼をすることを期待する。 備蓄品を見直して十分な量を確保するとともに、リストを作成して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、介護職員が柔軟に全てを受け入れ、冷静な対応ができる心のゆとりを持つ。記録の書き方も、あからさまな表現にならないように心掛けている。	事業所内での写真の掲示など、利用者の個人情報使用について契約時に利用者や家族等の同意を得ている。 利用者に対する言葉遣いに職員間で注意を払い、利用者の自尊心を傷つけないように配慮している。 トイレ誘導は利用者の羞恥心に配慮した声かけや誘導をしている。 個人情報に関する書類は事務所内で保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で、問いかけや傾聴をしながら、様々な選択の場面作りを行い、自分の思いを表わせるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	前日の睡眠状態、体調等を観察し、本人の希望に応じたケアを心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアの美容師の協力のもと、2ヶ月に一度、カットしてもらっている。また、行きつけの美容院に家族と一緒に行く人もいる。外出の際には、好みの洋服が着られるよう支援している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節のものを取り入れるように心掛けている。下ごしらえ等、利用者にもお手伝いいただき、「味はどうか」等、話題にしながら、職員と一緒に食事を囲む。	利用者は職員とともに自家菜園で採れた季節の野菜を収穫し、皮むきや食器洗いなどを行っている。 利用者の嗜好品を確認し、年3回程度ノンアルコールビールを提供している。 漁業組合からの新鮮な魚のお裾分けで刺身などを提供し、希望者はおかわりもしている。 糖尿病などで食事制限のある利用者には、調理内容を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養障害、脱水症状にならないよう、接種量のチェックを行い、低栄養予防を行っている。本人の好みに応じた飲物の提供、及び、好き嫌いの多い方には、きざむ等して形態を変える工夫を行い、栄養バランスに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、義歯洗浄の促し、声掛けを行う。睡眠時は義歯洗浄後、洗浄液に浸ける。ご自分で出来ない方には介助、一部声掛け等、出来る方には声を掛けて働きかける。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表をつける。排泄の訴えが出来ない方は、食事の前や就寝時等、また、行動や表情から察知し、トイレに誘導する。	排泄チェック表を活用し時間や回数など利用者一人ひとりの排泄パターンを確認するとともに、職員はタイミングを見計らって誘導し、トイレで排泄ができるように支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操への参加や、庭の散歩等に誘いかける。食事は野菜を積極的にメニューに取り入れ、手作りを基本としている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があれば毎日、その他は1日置きに入浴している。体調に合わせて、熱めの湯、ぬるめの湯など、希望に合わせて合わせる事もある。ゆっくりと解放感が味わえるように支援し、スキンケアを図りながら、会話も多くしている。入浴剤を使用したり、菖蒲湯等、季節を感じてもらえるよう配慮している。	1日おきに入浴を支援している。 利用者が入浴したことを忘れて、入浴を再度希望した場合でも入浴ができるように支援をしている。 入浴を嫌がる利用者には、声かけを工夫して入浴ができるように支援をしている。 風呂場のタイルに、昔の銭湯を思い起こさせるような富士山の絵が描かれているほか、窓を開けると利根川を眺めることもできる。 失禁や汚染をしてしまった場合は、清拭や部分浴で対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活リズムの中で、その日の体調や気分により、個々に思う通りに過ごされている。夜間、寝付けない時は、飲物を提供したり、職員とコミュニケーションをとり、安心して入眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の薬をセットする際、目的や副作用、用法、用量について理解している。症状の変化があり、新たに処方された薬については連絡ノート等で共有出来るようにする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る力が発揮できるよう、台所仕事や清掃、洗濯物たたみ等の働きかけをしている。好きなカラオケ、手踊り等、楽しみ事が続けられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に、外食やお墓参り、美容室、買物等に出掛けられる。また、地域の方々の協力を得て、お祭りや盆踊り、もちまき大会等にも参加している。	利用者は庭を散歩しているほか、職員が計画を立てて車両で桜見物やドライブに出かけている。 外出時は利用者が車両に乗降し易いよう利用者の身体の状態に合った車両を用意している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理出来なくなっている方が多いので、外出時以外は、事務所の金庫にてお預かりしている。欲しい物がある場合は、職員と一緒に買物に出掛ける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や宅配が届いた時は、本人にお渡しし、お礼の電話をかけるなどして、ご家族とお話し出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂には、散歩で摘んできた草花等を飾っている。廊下には、利用者同士で集まって話が出来るようにベンチを配置している。利用者が集まる場所では、こまめにエアコン等の温度調節をしている。	居間には光が差し込み季節の花が飾られているほか、ソファやテレビ、長椅子、エレキトーンが設置されており、のんびりと過ごせる空間づくりをしている。 椅子やテーブルは木目調で、高齢の利用者が座り易い高さになっている。 行事の写真や利用者が好む歌が掲示されており、笑顔で会話を楽しむ利用者が多く見受けられる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチで気の合った利用者がおしゃべりを楽しんでいる。畳のスペースも、くつろげるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は各自好みに合わせて部屋づくりをしている。居室内は清潔が保たれるよう、職員がチェック管理している。	居室には利用者が大切にしている遺影や使い慣れたテーブル、布団、ポット、洗濯ばさみ、マッサージチェアなどが持ち込まれている。 利用者の身体の状態に合わせて畳部屋か床部屋を選ぶことができ、のんびりと過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの廊下は、車椅子で動けるよう広くとり、手摺がある。トイレも広く、明るく、介助しやすくなっている。各居室のドアに花や果物が描かれたネームプレートを付けている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームはさき寿長生の家

作成日 平成24年5月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	家族からの要望や意見があまりない	利用者や家族の意見を汲み上げホームの運営に反映させる	職員会議を実施し、外部調査時のアンケート集計表の結果を職員全体で受け止め、各項目ごとに反省点や今後の取組みについて話し合う。利用者や家族との会話の中で今以上に具体的な会話を心掛け、利用者や家族の思いが汲み取れるようにする。必要に応じて家族へのアンケートを実施する。	12ヶ月
2	5	やむを得ず身体拘束をする場合の家族等への説明書、同意書を用意していない	身体拘束排除に向けての社内研修の実施。家族への説明書や同意書、経過観察記録、検討記録の書式を整備する。	身体拘束排除に向けての研修を月1回開催している社内研修で実施する。やむを得ず身体拘束を行う場合の家族への説明書や同意書、経過観察記録、検討記録の書式を整備しておく。	3ヶ月
3	12	重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を利用者や家族等に書面では説明していない	対応方針を明記した書面の整備	入居契約時に説明は行ってきたが、書面上の同意は得ていないので、事業所の対応方針を職員全体で検討し、書面の整備をする。	3ヶ月
4	13	避難訓練に近隣住民の参加が得られていない。備蓄リストが作成されていない	近隣住民への声掛けの実施。備蓄品の見直しとリストの作成	避難訓練の参加に運営推進会議で協力依頼をしたり、近隣住民への声掛けを積極的に行う。また備蓄品は十分な量を確保し、備蓄場所にリスト表を貼り付けておく。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。